

## 在宅学修に向けた Teams を使ったオンライン授業

### Online class using Teams for home study

梶木 克則

Yoshinori KAJIKI

甲子園大学 栄養学部

College of Nutrition, Koshien University

Email: kajiki@koshien.ac.jp

**あらまし**：コロナウイルス下で在宅学修に向けてオンライン授業の実施方法が検討され、マイクロソフトとの契約で Office365 の機能を利用できることから、Teams を使うことが決まった。その他、学生への授業に関する通知と教材配布に関するルールと方法が決められた。学生側の受講環境と教員側のオンライン授業体制整備など、実際には多くの問題を抱えながら始まった。それら一連の経緯と実践内容を報告する。

**キーワード**：オンライン授業, Teams, Office 365, ポータル

#### 1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大の対策として、とにかく自宅待機の体制が取られ、各種行事は取りやめとなり卒業式も行われないう事態となった。その後の入学式、オリエンテーション、健康診断、通常の授業開始も全て中止となった。

2 回生以上の在学生については、大学配布のメールアドレスを通じての連絡方法が使えたが、新入生についてはメールアドレスとパスワードの配布とメールアプリの使い方の指導が必要であった。学部によりその実施手順は同じではなかったが、新入生のメールによる連絡体制が徐々に浸透した。

通常であれば新学期が始まれば、オリエンテーションで説明を受け、履修登録を1週間程度の期間を設けて、教務委員会担当の教員のチェックを受けながら、1年間の履修科目を決める作業が始まるが、そうした説明やチェックが対面で出来ない状況となった。特に履修登録の経験のない新入生にとって、科目を選ぶ際の判断や、教職関連の科目の扱いは、メールや文書では伝えにくい、個別指導の必要な部分らしく、1回生の担任の教員は苦慮されていた。そうしたこともあり、履修登録の最終期限を1ヶ月以上設けられていたり、履修者が確定しない期間が長く続いた。

これまでeラーニングやポータルサイトの全学的な利用が行われないうままになっていたこともあり、在宅学修に向けて課題の配布ととりあえずの期限などが検討された。ゴールデンウィークまでの期間をとりあえずの課題による在宅学修の期間として設定し、その後の状況を見ることとなった。その後も状況は変わらず、追加の課題を配布する期間を設け、5月14日からはオンライン授業の運用開始が決められた。

4月当初から長引くであろう在宅学修に向けてのオンライン授業のやり方は検討されてきたが、全くの未経験であったため、決め手となるツールがどれなのか、Teams を使うにあたって問題が生じないの

かなど、暗中模索であった。Office365 の契約を踏まえて、Teams を使うことが決まり、全くの初心者状態からの運用開始となった。

まず大きな問題となったのが、教員側のメールのアカウントと学生向けのメールのアカウントを大きく分けて設定していたことで、Teams への学生メンバーの登録がスムーズにいかない問題が発生した。やむなく、学生側の方に各教員のメールアドレスを追加登録することで、解決した。

大部分の教員はオンライン授業の経験などなく、Teams も全員知らず、世の中はテレビ会議の画面を見せるオンライン授業が流行りだし始めた状況で、とにかく一度 Teams の講習会を開く必要があった。講習会に向けてマニュアル作りも必要であったが、とにかく使う側の先生方に Teams の基本的な機能を体験していただくことを第一に、マイクロソフトが提供していた最新のマニュアルをお手本として、基本的な操作方法と画面の様子を説明した。その他、講習会がその後も開催され、いくつかの機能について紹介された。学生向けの講習会は特に行われず、教員がオンライン授業を始める中で、徐々に慣れていったという使われ方になった。

これらのオンライン授業を始めるにあたっての経緯と共に、Teams を使ったオンライン授業の実践内容について報告する。

#### 2. 在宅学修のやり方

オンライン授業をすぐには始められないため、まずは課題に取り組んでもらう形で、連休までの期間に向けて各科目2つの課題を用意し、郵送で送ったり、メールに添付して送られた。まだ履修登録も確定していない時期で、必修科目を中心に実施された。

##### 2.1 オンライン授業が始まる前に

履修登録と共に教科書販売が行われるが、今回教科書の注文を業者が受けることはできないため、学生からの注文を大学を経由して書店に送る形で、自宅に教科書が届くことになった。

そうした教科書が届いていない状況も考慮しての課題であったり、オンライン授業の開始となった。

課題中心の連休前までの期間から、すぐにオンライン授業を始める前に1週間の移行期間が設けられた。

## 2.2 オンライン授業が始まると

移行期間は連休後から5月13日までの1週間で、3週目という設定で、3つ目の課題か、Teamsを使ったオンライン授業を実施するかどちらかを選ぶこととなった。その後14日からは4週目に入り、基本的にTeamsを使ってのオンライン授業が始まった。

5週目の期間にオンライン授業に関するアンケートが実施され、事前の連絡、配布教材、授業の内容などについて調査された。特に学生からの要望等は聞かれなかった。

## 3. オンライン授業実施に向けて

Teamsを使ってのオンライン授業を実施することが決まった後、学生側の通信環境とパソコン環境についてアンケート調査が行われた。

### 3.1 通信環境のアンケート調査

全体の80%の回答率で、パソコンを持っていないという学生が多く回答者の15%に達した。スマートフォンはほぼ100%に達するものの、スマートフォンだけでオンライン授業を受けるには、できない事も出てくる事が懸念された。

### 3.2 パソコンの貸出し

パソコンを持たない学生向けに、大学内のノートパソコンを貸し出す準備が進められ、実際に貸し出しの申し込みがあったのは、調査結果の半数程度となった。パソコンの貸し出し以外に、通信容量制限のためにオンライン授業を受けにくいという調査結果も出ていたために、「通信環境整備資金」として、在学生全員に一律30,000円を支給することが決定された。

### 3.3 先生の中にはZoomをお使いの方も

大部分の教員は遠隔授業のためのツールなどを使ったことが無く、Teamsも初めてであるが、以前から学会関連や講習会などでZoomというテレビ会議のツールをお使いの教員もおられることが分かってきた。そうした経験やノウハウを学内での講習会で説明していただき、たいへん参考になった。

### 3.4 Teamsを教員・学生で使うにあたり

Teamsを使うことは、マイクロソフトとの契約の中で、Office365のProPlusというサブスクリプションでTeamsに関連した機能を使えることから、決定した。本学では教職員と学生のメールアドレスを別に設定していた関係で、Teamsのチーム名を決めて学生をメンバーに登録する際にスムーズに登録で

きないという不具合が発生した。そのため、学生側のアカウントに、教員のメールアドレスを追加することで対応した。

## 3.5 とにかく講習会を開くことに

オンライン授業が始まる連休の前に、教員向けにTeamsの講習会を実施しておく必要があった。急な開催でマニュアルを用意する時間も無く、マイクロソフトのTeamsに関する中学生向けのマニュアルを参考に、4月30日に講習会を実施した。会議の開催、いいねを使った出席者情報の集め方、画面を共有して学生に教員画面を見せる方法、ファイルの配布方法とエクセルの共有による同時編集（リアルタイムアンケート）など。

## 3.6 オンライン授業の経験者

以前からZoomを使って経験されている教員から、オンライン授業の際の注意事項として、学生は基本的にマイクはOff、教員の視線はカメラに向けるなど、具体的なノウハウが教授された。

## 4. オンライン授業の開始

オンライン授業開始前から、学生への連絡について、メールで授業に関する連絡を送ると、1週間に20通ものメールが届くことになり、見落とし、混乱の原因になりかねないと考えられた。そこで、ポータルのお知らせという機能を使い、授業に関する連絡と教材配布を行うことが取り決められた。このお知らせという機能は、履修登録と連携していて、科目ごとの履修者宛に文面とファイルを配信でき、一人ひとりが画面を開いたかどうかを、読んでいなければ「未読」という表示で示してくれる。便利な機能がある反面、メールのように手軽に使えるアプリではなく、毎回ログインをしなければならない不便さもある。

Teamsを使っていく中で出席を取る方法についての要望が出てきたときに、出席者リストをダウンロードできる機能が追加され、学生ごとに参加と退出の時刻が追加記録されたcsvファイルをダウンロードできるようになった。これまで色々なやり方で出席者の確認が行われてきたが、最も確実なやり方が提供された。

## 5. まとめ

本学でのオンライン授業開始までの経緯を含めて、Teamsでの出席のとり方までを大雑把に説明した。大学での授業でパワーポイント見せながら説明されていた授業内容であればそのままTeamsを使って置き換えることができる。しかし、大部分は準備と後処理に大変な労力が必要となり、慣れないこともあり負担が大きい。

必要に迫られてこうしたオンライン授業を実施したことにより、今後の授業のやり方が変わることは大いに実感している。